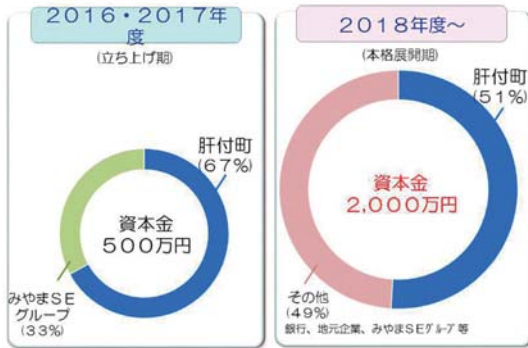


暮らしやすい町づくりへ

地域のエネルギー活用し新電力会社設立

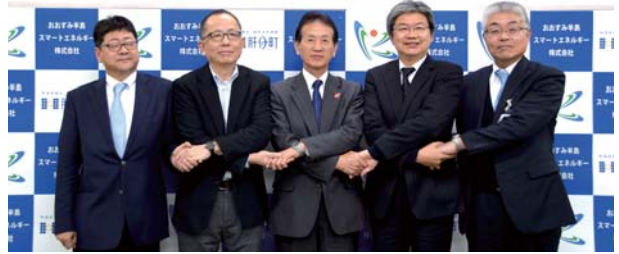
おおすみ半島スマートエネルギー株式会社は、1月5日に設立され、18日に町コミュニティセンターで発表されました。町が九州スマートコミュニティ（福岡県みやま市）と共同で設立した新電力会社で、2月1日から営業を開始、4月以降、太陽光発電などの再生可能エネルギーを中心とした電力の販売を始める予定です。みやま市や九州大学と連携し、電力使用量変化を利用した高齢者や子どもの見守りなどの生活支援サービスも提供する計画で、将来的には大隅地域全体の「再生可能エネルギーや資源の地域内循環推進と関連産業の育成・発展に寄与する」電力会社を目指します。永野町長は「地域に豊富にある再生可能エネルギーをコントロールし、活用することで、暮らしやすいまちづくりへとつなげていきたい」とあいさつしました。

会社規模(資本金)・株主構成



◀ 印刷な限り前向きを掲載する

おおすみ半島スマートエネルギー株式 設立記者発表



設立を発表した磯辺達社長（右から2人目）ら

買い物客でにぎわい 内之浦ロケット朝市

内之浦ロケット朝市が内之浦漁協市場で12月18日に開催されました。新鮮なサバやアジなどのほか野菜や加工食品等の販売、ふるまい汁の配布、抽選会などがあり、多くの買い物客でにぎわいました。毎年来場しているという高山地区の石原淳子さんは「魚が新鮮なのでとてもいいです。買えてよかったです」と話していました。



鮮魚を買い求める人々

低コストロケットに夢 2 段目点火中止

民生技術を用いた開発と超小型衛星の打ち上げ実証を目指す、SS-520-4号機の打ち上げが1月15日、内之浦宇宙空間観測所で行われました。打ち上げ時、飛行態勢は正常だったものの、20秒後にロケットからのデータ通信が途絶えたことで2段目の点火を中止しました。原因はまだ明らかになっていません。



観測所から打ち上げられるロケット